



## 中国の景気刺激策 ～自動車編～

中国では今年に入り「自動車産業振興計画」が発表され、次々と政策が実施されています。本稿では、2009年1月に発表された「購入税の減免」と3月から実施された「汽車下郷」についてレポートいたします。

### 「購入税の減免」

中国政府は消費刺激策の一環として、09年1月から12月末までの期間、排気量1,600cc以下の自動車を対象として、「購入税(取得税)」を従来の10%から5%に引き下げました。これによりユーザーは、購入にかかる費用を抑えることができ、購入促進につながるため、小型車マーケットに強い中国メーカーにとっては有益な施策となりました。実際、09年1～2月のマーケットシェアは、これまでトップだった日系メーカーを抑えて中国メーカーが最大シェアを確保しています。

### 「汽車下郷(自動車を農村に)」

「汽車下郷」(「汽車」とは中国では自動車を意味します)とは、09年3月から同年12月末までの期間、農村部での軽トラックへの買い替えや排気量1,300cc以下の自動車の購入に対して、総額50億元(約700億円)の財政補助金を拠出するものです。農業用三輪車などを廃棄して小型車に買い替える場合、政府が5,000元(約7万円)を上限に購入額の10%を補助し、また廃棄費用の一部も負担します。またオートバイについては650元(約1万円)を上限に購入額の13%を補助金として支給します。

中国では今年から全国でカラーテレビや洗濯機、携帯電話など家電製品購入の際にも販

売価格の13%を補助する「家電下郷」(電化製品を農村に)が実施されており、政府は自動車とともに内需拡大と地域格差の是正に努めています。

その他の政策として、今年2月に発表されたハイブリッド車、電気自動車など環境配慮型車に対する財政補助や、割高な自動車ローンに対する優遇措置等もあります。

### 最後に

これらの景気刺激策により、中国の3月の月間自動車販売台数は前年同期比5%増の110万9,800台と単月ベースで過去最高を記録し、世界一になりました。米国の販売不振(米国の3月の新車販売台数は85万7,735台)も一因として挙げられますが、08年の中国における自動車販売台数は前年比6.7%増の935万台と、06年、07年の20%超の高成長と比べると伸び率は鈍化しているものの、依然として高い伸びを続けています。また日本、欧米の自動車マーケットでは景気の影響を受けやすい更新需要が約8割程度を占めていますが、中国では逆に新規購入需要が約8割強を占めていると言われており、今後のマーケットの広がりが期待されます。

一方、林立する中国国内メーカーの再編や新エネルギー車の産業化、渋滞や道路整備の遅れなど、中国は多くの問題を抱えています。しかしながら、日本の自動車業界にとって中国の自動車マーケットは世界戦略上重要な位置づけを占めるようになっており、今後も中国の動向に注目していきたいと思えます。

(三井住友銀行上海支店トレーニー 林田 紘一)